

# ブラザーの価値創造プロセス

2020年2月29日  
ブラザー工業財務部 中島

## ブラザーの目指す姿、理念、価値観

ブラザーの目指す姿

お客様の声と、社会からの期待の変化を  
事業の成長機会として捉え、  
未来永劫の繁栄を目指します

企業理念

ありたい姿  
中期ビジョン

ブラザーグループは、すべての活動の礎である「ブラザーグループグローバル憲章」に記された、事業成長と社会貢献の両方に注力し、お客様第一としたすべてのステークホルダーの長期的価値創造を実現してきました。

その中でブラザーは、困難を克服し続けてきた「持続的な発展目標(SDGs)」に掲げられている17ゴールへの貢献を目指すことに加え、その4つの項目に特に注力し、事業を通じて社会価値を創造し、グローバル社会に貢献するとともに、環境・社会・ガバナンス(ESG)を重視した経営を推進します。

4つの発展領域は「持続可能なSDGsの貢献」

お客様が幸せを感じるイノベーションを、従業員が創造力を発揮し生み出すこと  
地球環境保全に積極的に取り組むこと  
社会課題に迅速に応えるため、ビジネスパートナーとの協働体制を強化すること

このように活動を通じてブラザーはSDG経営を推進させ、ステークホルダーとの信頼関係をさらに強化し、未来永劫の繁栄に取り組むことを目指します。

## ESGに対する認識

お客様・社会の変化にモノノリで応える

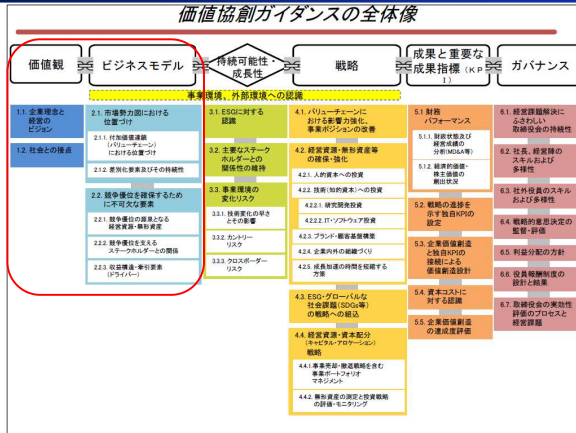
ブラザーは常に変革に向き合っています。変革し続けることは変化をお客様のニーズに対して常に「優れた価値」を創造していくための戦略であり、モノノリ企業であるブラザーグループの存在意義でもあります。お客様が社会から要請される価値は変化していきます。例えば、国連総会において2015年に採択された、2030年をゴールとする「持続可能な開発目標(SDGs)」は、持続可能な世界を実現するための17の目標を掲げており、企業に対しても行動が期待されています。また、多くのステークホルダーから、環境・社会・ガバナンス(ESG)を重視した経営が求められています。

その中でブラザーは、数多くある社会課題の中から以下の項目に優先的に取り組み、事業を通じた社会価値の創造を実現すべきだと考えます。

- お客様が幸せを感じるイノベーションを、従業員が創造力を発揮し生み出すこと
- 地球環境保全に積極的に取り組むこと
- 社会貢献活動を積極的に推進すること
- 社会課題に迅速に応えるため、ビジネスパートナーとの協働体制を強化すること

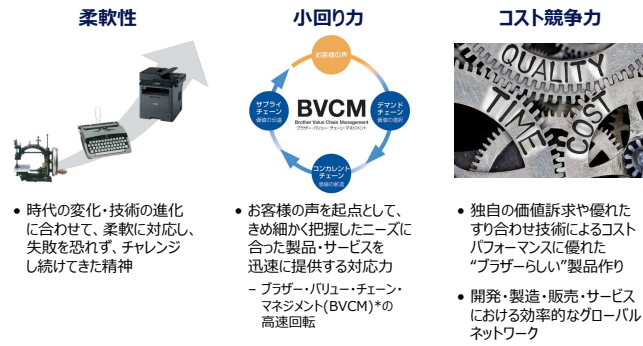
これらの課題に取り組むことは、ブラザーの未来永劫の繁栄のために必要なことです。そしてその実現のためには、お客様の声に加え、このような社会からの期待の変化をあらためて事業の成長機会、あるいは経営のリスクとして真摯に捉え、その解決に向かう必要があると考えます。

## 価値観・ビジネスモデル



## ブラザーならではの強み

ブラザーのユニークな強みは、「At your side.」の精神に基づく柔軟性・小回り力・コスト競争力



## TCFDへの賛同表明

「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に賛同

2020年2月12日

ブラザー工業株式会社

ブラザー工業株式会社(社長: 佐々木 節)は、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」の提言に賛同を表明いたしました。今後、TCFDの提言に基づき、気候変動が事業に及ぼすリスクと機会を分析し、経営戦略に反映するとともに、関連する情報に開示に努めます。



ブラザーグループは、ブラザーグループ環境方針のもと、事業を通じてSDGs達成に貢献すべく、未来永劫の繁栄に向け、次なる共通価値の創造に積極的にチャレンジしています。

社会的な期待や課題である気候変動や資源確保、環境汚染、生物多様性については、2018年に「ブラザーグループ環境ビジョン2050」を策定し、マイルストーンとして2030年中期目標を掲げてまいりました。

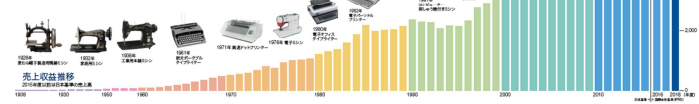
中でも気候変動については、世界が目標とする脱炭素社会の形成に貢献するため、あらゆる事業活動でバリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出削減に前向きに取り組んでいます。また、CO<sub>2</sub>排出削減における2030年中期目標は、2018年7月に、国際的な気候インシニアティブである「Science Based Targets(SBT) イニシアティブ」から、パリ協定の「2℃目標」達成のための科学的根拠に基づく削減目標として認定されています。

## ブラザーの歩み

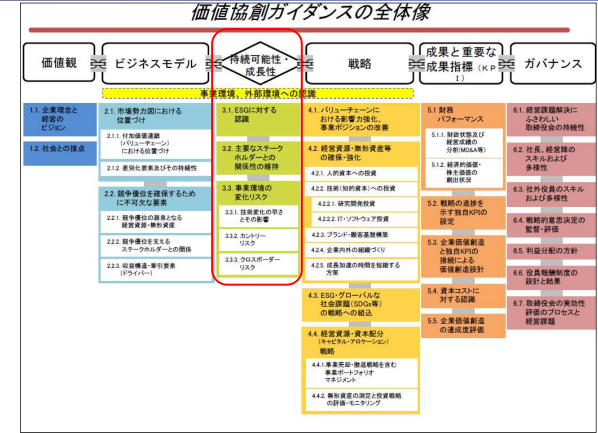
ブラザーの歩み

創業以来、ブラザーは時代のニーズに合わせて事業を変化させてきました

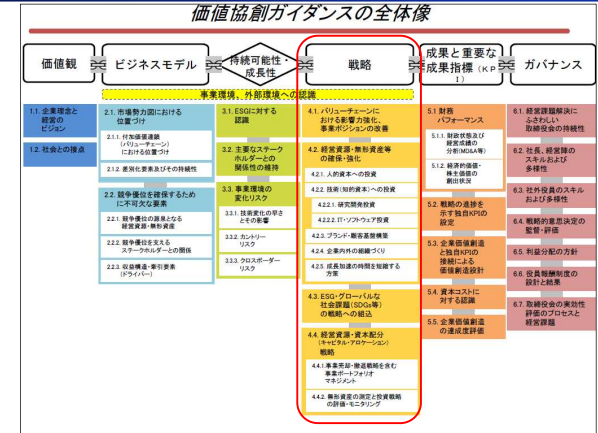
1908年に、ミシンの修理業から始まったブラザーグループ。その後、独自の技術開発に注力し、蓄積したコア技術を駆使して事業の多角化を進める常に新しい市場を開拓し続けることで成長してきました。あらゆる市場でお客様を第一に考えたいニューでオリジナルのモノづくりが成長の原動力となっています。



## 持続可能性・成長性



## 戦略



プレーヤーを取り巻く事業環境は、厳しさを増していくものと認識

プリンティング領域



産業用領域



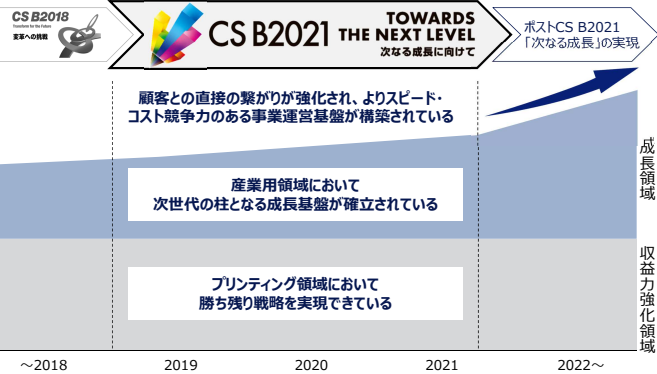
ホーム&カルチャー領域



- 紙離れによる印刷の減少に加え、消耗品の純正品率低下が継続
- 所有から利用へ、顧客の購買行動が大きく変化の中で、サービスニーズの多様化が加速
- 引き続き一定の成長が見込まれる
  - 省人化・自動化、自動車部品加工需要の高まりによりマシナリー市場が拡大
  - トレーサビリティ・カスタマイズ需要の高まりにより産業用印刷市場が拡大
- 一方、各国の政策変更等によるマクロ環境変化を認識
  - 米中貿易摩擦・Brexit等の影響による景気後退リスク
  - 各国の安全保障政策厳格化に伴う規制強化
- 市場成熟の一方で、刺繍やクラフト等カスタイゼーション志向の高まりやエンターテインメントの多様化により、顧客ニーズが変化

CS B2021においては、従来以上に踏み込んだ改革が必要不可欠

CS B2021は、グローバルビジョン21へ繋ぐ「次なる成長」に向けた基盤を構築する期間と位置付け、プレーヤーの強みを発揮し、経営の最優先事項にフォーカスした改革を実行する

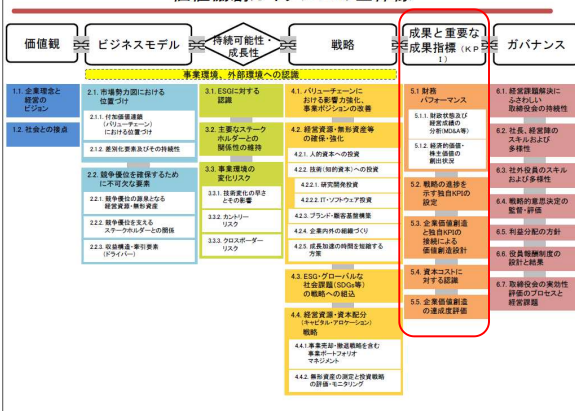


CS B2021 次なる成長に向けて  
～成長基盤構築～

- 1 プリンティング領域での勝ち残り
  - 高PV\*ユーザーの獲得強化と本体収益向上による事業規模の維持・収益力の強化
  - 新たなビジネスモデルへの転換加速により、安定収益確保と顧客との繋がりを強化
- 2 マシナリー・FA\*領域の成長加速
  - 自動車・一般機械市場強化による産業機器分野の大幅な成長
  - 省人化・自動化ニーズを捉えたFA領域の拡大
- 3 産業用印刷領域の成長基盤構築
  - シナジー顕化によるドM事業の成長再加速
  - インクジェットを核としたプリンティング技術活用による産業用印刷領域の拡大
- 4 スピード・コスト競争力のある事業運営基盤の構築
  - IT活用によるグループ全体の業務プロセス変革・効率化の実現
  - 人財の底上げ・最適人材体制の確立による組織パフォーマンスの最大化
  - 不採算・低収益事業のてこ入れ

\*Print Volumeの略。印刷量  
\*Factory Automationの略。工場の様々な作業や工程を機械や情報システムを用いて自動化すること

価値協創ガイダンスの全体像



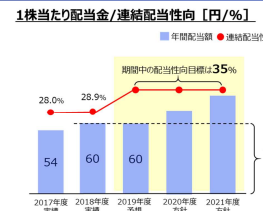
産業用領域の拡大とスピード・コスト競争力の強化により、売上収益7,500億円・営業利益750億円を目指す

CS B2021 財務数値目標 (為替前提 1USD=105円, 1EUR=125円)

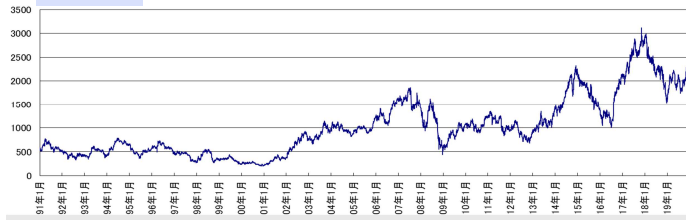
売上収益	7,500億円
営業利益	750億円
営業利益率	10.0%
ROE	12.0%以上

中期戦略 株主還元方針

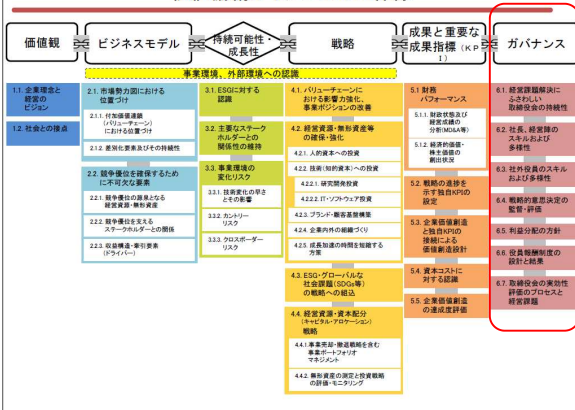
- 連結配当性向の目標は35%
- 原則、厳しい環境下でも配当額は維持 (1株当たりの年間配当の下限は60円)



株価の推移



価値協創ガイダンスの全体像



ブラザー工業株式会社(以下、ブラザー工業)は、ブラザーグループがグローバルに展開するすべての活動の礎として「ブラザーグループグローバル憲章」を定め、経営資源の最適化と顧客価値の創造により企業価値を長期的に高めること、株主に対する積極的な企業情報の提供により企業の透明性を高め、株主との間に長期的信頼関係を築くことなどを、ブラザー工業のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方としています。



- コーポレートガバナンス基本方針
- コーポレートガバナンス体制
- 内部統制
- コンプライアンス
- 機密情報セキュリティ基本方針
- 製品情報セキュリティ基本方針
- 製品安全に関する基本方針

